

官報 號外

大正八年二月二十八日

金曜日

印刷局

第四十二回 衆議院議事速記第十八號

大正八年二月二十七日(木曜日)午後一時九分開議
議事日程 第十七號 大正八年二月二十七日
午後一時開議

- 第一 執達吏規則中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第三 執達吏ノ手数料及立替金増額ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第五 結核豫防法案(政府提出) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第七 「トラホーム」豫防法案(政府提出) 第一讀會
- 第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第九 農工銀行法中改正法律案(天春文翁君外十七名提出) 第一讀會
- 第十 日露語學校設置ニ關スル建議案(松本誠之君提出) 第一讀會
- 第十一 松本鐵道建設ニ關スル建議案(高島順作君外五名提出) 第一讀會
- 第十二 農務省新設ニ關スル建議案(中倉万次郎君外十名提出) 第一讀會
- 第十三 農工銀行補助法第七條實施ニ關スル建議案(中倉万次郎君外十名提出) 第一讀會
- 第十四 水産銀行設立ニ關スル建議案(鶴澤宇八君外二名提出) 第一讀會
- 第十五 東方調査局設置ニ關スル建議案(伊東知也君提出) 第一讀會
- 第十六 朝鮮平元鐵道急設ニ關スル建議案(牧山耕藏君外五名提出) 第一讀會
- 第十七 伊萬里、佐世保間鐵道建設ニ關スル建議案(中倉万次郎君外四名提出) 第一讀會
- 第十八 羽越橋斷鐵道建設ニ關スル建議案(小林源藏君外七名提出) 第一讀會
- 第十九 若松、柳津間輕便鐵道建設ニ關スル建議案(八田宗吉君外四名提出) 第一讀會
- 第二十 (特別報告第四十二號)產業組合ニ對シ印紙稅免除ノ請願 (委員長報告)

第二十一 (特別報告第四十三號)製鹽特別賠償價格制定ノ請願 (委員長報告)

第二十二 (特別報告第四十四號)特別用鹽規則中缺追加ノ請願 (委員長報告)

第二十三 (特別報告第四十五號)專賣官吏派出所設置ノ請願 (委員長報告)

第二十四 (特別報告第四十八號)質屋取締法中改正ノ請願外一件 (委員長報告)

第二十五 (特別報告第五十一號)仙臺地方裁判所石卷支部權限復舊ノ請願 (委員長報告)

第二十六 (特別報告第五十四號)太田、三次間輕便鐵道測量及速成ノ請願 (委員長報告)

第二十七 (特別報告第五十五號)上越鐵道速成ノ請願 (委員長報告)

第二十八 (特別報告第五十六號)上越鐵道敷設工事急施ノ請願 (委員長報告)

第二十九 (特別報告第五十七號)池田、川之江間鐵道敷設ノ請願 (委員長報告)

第三十 (特別報告第五十八號)津山、新見間鐵道敷設速成ノ請願 (委員長報告)

第三十一 (特別報告第六十一號)都城、福島間鐵道敷設ノ請願 (委員長報告)

○議長(大岡青造君) 諸般ノ報告ガアリマス
〔原田書記官朗讀〕

一昨二十六日政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
結核豫防法案

「トラホーム」豫防法案
提出者 熊谷 直大君 戶狩權之助君
小林 源藏君 高橋 辰二君
大石 五郎君 齋藤 紀一君

一去二十五日議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
鶴岡、大泉間國有輕便鐵道敷設ニ關スル建議案
提出者 熊谷 直大君 戶狩權之助君
小林 源藏君 高橋 辰二君
大石 五郎君 齋藤 紀一君

新見、庄原間輕便鐵道建設ニ關スル建議案
提出者 湯淺 凡平君 西村丹治郎君
福井 三郎君

一去二十五日議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ
青年指導ニ關スル再質問主意書
提出者 田中 萬逸君

國民思想ノ善導ニ關スル再質問主意書
提出者 田中 善立君

一昨二十六日議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ
小學校教員ニ給スル臨時手當ニ關スル再質問主意書
提出者 高田 耘平君

一今二十七日議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ
公娼制度ノ存廢ニ關スル第三質問主意書
提出者 横山勝太郎君

一昨二十六日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ
第一回國勢調査施行ニ要スル地方經費國庫支辨ニ關スル法律案(政府提出)

作業會計法中改正法律案(政府提出)
戰時利得稅法中改正法律案(政府提出)
國債整理基金特別會計法中改正法律案(政府提出)

海軍工廠資金會計法中改正法律案(政府提出)
朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案(政府提出)

(特第一號)大正七年度各特別會計歲入歲出豫算追加案(政府提出)

一去二十五日政府ヨリ受領シタル報告左ノ如シ
大正六年四月一日ヨリ大正七年三月三十一日ニ至ル各省所管官有財産増減異動報告
〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノクメ茲ニ掲載ス〕

一去二十五日木津川治水ニ關スル建議案委員井上敬之助君辭任ニ付其補闕トシテ小田切磐太郎君ヲ、衆議院議員選舉法中改正法律案委員棚瀬軍之佐、古島一雄君、村松恆一郎君辭任ニ付其補闕トシテ下岡忠治君、野添宗三君、高木益太郎君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ

一昨二十六日衆議院議員選舉法中改正法律案委員
政尾藤吉君、福本寅松君、生原忠右衛門君、佐々木
文一君辭任ニ付其補闕トシテ三土忠造君、中村啓
次郎君、武藤金吉君、清峯太郎君ヲ議長ニ於テ選定
セリ

一今二十七日衆議院議員選舉法中改正法律案委員
松浦五兵衛君、鳩山一郎君、古屋慶隆君辭任ニ付
其補闕トシテ森田正路君、粕谷義三君、小泉又次郎
君ヲ、精神病院法案委員山根正次君辭任ニ付其補
闕トシテ仰安之丞君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ
一去二十五日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
決議案起草ノ件委員

委員長 小川 平吉君 理事 金杉英五郎君

○議長(大岡育造君) 是ヨリ會議ヲ開キマス——諮問ヲ
致シマス、第四部選出決算委員前田卯之助君、右常任委
員辭任ノ申出ガアリマシタ、許可シテ異議ハアリマセヌカ
リマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ許可スルコトニ
決シマス、第四部ノ諸君ハ、速ニ補缺選舉ヲ行ヒ届出アラ
シコトヲ望ミマス——此際宣告シテ置キマス、本期議會ハ既
ニ會期ノ三分ノ二ヲ經過シマシタ、先例ニ依リ、法律案
ハ成規ノ日時ヲ要セズ日程ニ掲載スルコト、一、本會議時間
ニ於ケル委員會ノ開會ハ議長ニ於テ之ヲ許可スルコト、一、議
案ノ都合ニ依リ定日以外ノ日ニ於テモ本會議ヲ開クコト、
是ハ先例デアリマスカラ、念ノ爲メニ宣告致シテ置キマス——
日程第一、第三ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議ハア
リマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ一括議題ト致
シマス、日程第一、執達吏規則中改正法律案、第三執達
吏ノ手數料及立替金増額ニ關スル法律案ヲ一括シテ議
題ト致シ、第一讀會ヲ開キマス——豊島政府委員

第一 執達吏規則中改正法律案(政府提出) 第一讀會

執達吏規則中左ノ通改正ス

第十九條中「百八拾圓」ヲ「四百五拾圓」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三 執達吏ノ手數料及立替金増額ニ關スル 第一讀會

法律案(政府提出)

執達吏手數料規則ニ依リ手數料及立替金ニ付テハ當
分ノ內勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ百分ノ五十以內ヲ增
額スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員法學博士豊島直通君登壇〕

○政府委員(法學博士豊島直通君) 執達吏規則中改
正法律案、是ハ執達吏ノ手數料ト一年間ノ收入ガ百八十
圓以下デゴザイマス、國庫カラ支出スルコト云フコトニ、之
ヲ今日ハ定メラレテゴザイマス、現今ノ經濟狀態ニ副ヒ
マセヌ所カラ致シマシテ、其額ヲ四百五十圓ニ上ゲマシテ、
其不足額ハ國庫カラ之ヲ支給スルコトニ致シタイ趣
意デゴザイマス、次ニ執達吏ノ手數料及立替金ノ増額ニ關
シマスル法律案ハ、是モ經濟界ノ變動ニ伴ヒマシテ、物價
ノ昂騰著シキモノガゴザイマスカラシテ、當分ノ間其經濟狀
態ニ適應スル爲メニ、五割ノ手數料ノ金額ヲ增加致シタイ
ト云フ趣意デゴザイマス、ドウカ何分御協賛ヲ御願致シマス
○議長(大岡育造君) 委員選舉ヲ議題ト致シマス

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選擧

○岩崎勳君 日程第一及第三ヲ一括シテ、委員ノ數ヲ九
名トシ、議長ニ於テ指名セラレンコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセ
ヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ此兩案ハ議長
指名九名ノ委員ニ付託スルコトニ決シマシタ——日程第
五、第七ハ便宜上一括議題ト爲スニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ一括議題ト致
シマス——第五、結核豫防法案第七、「トラホーム」豫防法
案——床次內務大臣

第五 結核豫防法案(政府提出) 第一讀會

結核豫防法

第一條 本法ニ於テ結核ト稱スルハ肺結核又ハ喉頭結
核ニシテ病毒傳播ノ危險アルモノヲ謂フ

第二條 醫師結核患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ヲ檢案
シタルトキハ患者ノ場合ニ在リテハ患者又ハ其ノ居住
ノ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者、死體
ノ場合ニ在リテハ死體所在ノ場所ノ管理ヲ爲ス者又
ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ命令ノ定ムル所ニ依リ消毒其
ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ

前項ノ規定ニ依リ指示ヲ受ケタル者ハ其ノ指示ニ從
ヒ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ行フヘシ

第三條 醫師ハ前條ノ規定ニ依リ指示ヲ受ケタル者其
ノ指示ヲ遵守セスト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員
ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第四條 行政官廳ハ結核患者又ハ其ノ死者アリタル場
所ニ付家屋物件ノ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ施行シ
又ハ其ノ施行ヲ患者又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其
ノ代理ヲ爲ス者ニ命スルコトヲ得

第五條 行政官廳ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ左
ノ事項ヲ行フコトヲ得

一 業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ従事スル者又
ハ病毒蔓延ノ虞アル場所ニ居住シ若ハ其ノ場所
ニ於テ職業ニ従事スル者ニ對シ健康診斷ヲ施行
スルコト

二 結核患者ニ對シ業態上病毒傳播ノ虞アル職業
ニ従事スルヲ禁止スルコト

三 學校、病院、製造所其ノ他ノ多衆ノ集合スル場
所又ハ旅店、料理店、理髮店其ノ他ノ客ノ來集
ヲ目的トスル場所ニ付病毒傳播ノ媒介トナルヘ
キ事項ヲ制限シ若ハ禁止シ又ハ場所ノ管理ヲ爲
ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ結核豫防上必
要ナル施設ヲ爲サシムルコト

四 古著、古蒲團、古本、紙屑、襪襪、飲食物其ノ他
ノ物件ニシテ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アルモノノ
賣買若ハ授受ヲ制限シ若ハ禁止シ、其ノ物件ノ
消毒若ハ廢棄ヲ爲サシメ又ハ其ノ物件ノ廢棄ヲ
爲スコト

地方長官ニ於テ前項ノ規定ニ依リ健康診斷ヲ施行シ
又ハ物件ノ廢棄ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海
道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第六條 地方長官ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ採
光、換氣其ノ他ノ關係ニ於テ衛生上不良ナル建物ノ
使用ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ニ因リ生シタル損害
ニ對シテハ地方長官必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル
所ニ依リ補償金ヲ交付ス補償金ハ北海道地方費又
ハ府縣ノ負擔トス

第七條 主務大臣ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノヲ
收容セシムル爲メ人口五萬以上ノ市又ハ特ニ必要ト
認ムル其ノ他ノ公共團體ニ對シテ結核療養所ノ設置
ヲ命スルコトヲ得但シ必要ト認ムルトキハ二以上ノ公

共團體ヲ指名シ共同設置ヲ命スルコトヲ妨ケス
前項ノ結核療養所ニ關スル經費ハ公共團體ノ負擔
トス

第一項但書ノ規定ニ依リ共同設置ヲ命スル結核療
養所ノ管理及經費分擔ノ方法ハ關係公共團體ノ協
議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ
定ム

第八條 地方長官ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノ
及豫防上特ニ必要ト認ムルモノヲ前條ノ規定ニ依リ
設置スル結核療養所ニ入所セシムルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ入所ノ費用ノ負擔及徵收ニ關シテ
ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第七條ノ規定ニ
依リ結核療養所ヲ設置スル公共團體ニ對シ其ノ結核
療養所ニ關シ公共團體ノ支出スル經費ノ六分ノ一乃
至二分ノ一ヲ補助ス

第十條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第七條ノ規定ニ
依ラスニテ結核療養所ヲ設置スル公共團體又ハ公益
法人ニ對シ其ノ結核療養所ニ關シ公共團體又ハ公
益法人ノ支出スル經費ノ一分ノ一以內ヲ補助スルコ
トヲ得

第十一條 結核療養所ヲ設置スル公共團體ニシテ第
九條又ハ前條ノ規定ニ依リ補助ヲ受クルモノハ他ノ
公共團體ノ委託アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療
養ノ途ナキ結核患者ヲ其ノ結核療養所ニ收容スヘシ

第十二條 北海道地方費又ハ府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ
從ヒ第五條第一項第二號ノ規定ニ依リ從業禁止又
ハ第八條第一項ノ規定ニ依リ入所ニ因リ生活スルコ
ト能ハサル者ニ對シ其ノ生活費ヲ補助スヘシ

第十三條 國庫ハ第五條第二項、第六條第二項又ハ
前條ノ規定ニ依リ支出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府
縣ニ對シ其ノ支出額ノ四分ノ一ヲ補助ス

第十四條 官廳、官立ノ學校病院製造所等ニ於テハ其
ノ長ハ第五條第一項、三號第四號及第六條第一項
ノ規定ニ準シ結核豫防ニ關スル事項ヲ施行スヘシ

第十五條 第二條第一項若ハ第三條ノ規定ニ違反シ
タル者又ハ第四條ノ規定ニ依リ行政官廳ノ命令ニ違
反シタル者ハ科料ニ處ス

第十六條 第五條第一項又ハ第六條第一項ノ規定ニ
依リ行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ百圓
以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大正三年法律第十六號ハ之ヲ廢止ス
大正三年法律第十六號ニ依リ設置ヲ命スル肺結核療
養所ハ本法ニ依リ設置ヲ命シタル結核療養所ト看做ス

第七 「トラホーム」豫防法案(政府提出) 第一讀會

「トラホーム」豫防法

第一條 醫師「トラホーム」患者ヲ診斷シタルトキハ命令
ノ定ムル所ニ依リ患者又ハ其ノ保護者ニ消毒其ノ他
ノ豫防方法ヲ指示スヘシ
當該官吏又ハ吏員ハ必要ト認ムルトキハ「トラホーム」
患者又ハ其ノ保護者ニ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指
示スヘシ

第二條 「トラホーム」患者ハ速ニ醫師ヲ治療ヲ受クヘシ
「トラホーム」患者ノ保護者ハ其ノ患者ヲシテ速ニ醫師
ノ治療ヲ受ケシムヘシ

第三條 行政官廳ハ「トラホーム」患者ニシテ治療ヲ受
クルノ途ナキ者ニ對シ治療ヲ施行スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ治療ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ
費用ハ患者所在地ノ市町村ノ負擔トス

第四條 行政官廳ハ「トラホーム」豫防上必要ト認ムル
トキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得
一 檢診ヲ施行スルコト
二 「トラホーム」患者ニ對シ客ニ接スル業務ニ從事ス
ルヲ停止スルコト
三 學校、幼稚園、製造所其ノ他ノ多衆ノ集合スル
場所又ハ旅店、料理店、理髮店其ノ他ノ客ノ來
集ヲ目的トスル場所ニ付病毒傳播ノ媒介トナル
ヘキ事項ヲ制限シ若ハ禁止シ又ハ場所ノ管理ヲ
爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ「トラホーム」
豫防上必要ナル施設ヲ爲サシムルコト

地方長官ニ於テ前項第一號ノ檢診ヲ施行スル場合ニ
於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第五條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ「トラホーム」
ノ豫防及治療ニ關スル施設ヲ爲スヘシ

第六條 北海道地方費又ハ府縣ハ命令ノ定ムル所ニ
依リ「トラホーム」ノ豫防及治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲
ス市町村ニ對シ其ノ費用ノ補助ヲ爲スヘシ

第七條 國庫ハ前條ノ補助ノ爲其ノ他「トラホーム」ノ
豫防及治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス北海道地方費又
ハ府縣ニ對シ其ノ支出額ノ六分ノ一ヲ補助ス

第八條 官廳、官立ノ學校製造所等ニ於テハ其ノ長ハ
第四條第一項第三號ノ規定ニ準シ「トラホーム」豫防
ニ關スル事項ヲ施行スヘシ

第九條 第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタ
ルモノハ科料ニ處ス

第十條 第四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ命令
又ハ處分ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科
料ニ處ス

第十一條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ左ノ各號ノ一
ニ該當スル者ヲ謂フ
一 未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ未成年者若
ハ禁治產者ノ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人
ナキトキハ戶主、戶主未成年者又ハ禁治產者ナ
ルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ戶主ノ後
見人

二 教育、監護又ハ輔佐ノ目的ヲ以テ未成年者ヲ寄
寓セシムル者又ハ其ノ法定代理人

第十二條 本法中市町村トアルハ市制町村制ヲ施行
セザル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣(床次竹二郎君) 結核病ニ依テ死スル者年
々約八万以上ゴザイマス、此病者ノ推定數ハ、全國ニ於テ
五十万以上ゴザイマス、而モ逐年其病勢ハ増加シテ行ク
有様デゴザイマス、衛生上及經濟上ニ及ボス影響ハ甚ダ大
ナルモノデアリマシテ、是ガ豫防撲滅ハ、國防並ニ教育上實
ニ看過スベカラザル緊要ノ問題ト考ヘマス、現在ニ於キマシ
テハ、肺結核療養所ノ設置及國庫補助ニ關スル規定ガア
リマシテ、人口三十万以上ノ都市ニ對シテ肺結核療養所
ノ設置ヲ命ジ、窮民患者ノ療養ヲ致スト云フコトニナッテ居
リマスガ、前申上ゲルヤウナ現在ノ狀況デアリマスカラ、今
日ノ有様デ到底過ス譯ニハ參リマセヌ、一般ニ豫防ニ關ス
ル法規ヲ作ル必要ガゴザイマス、仍テ此際一般ノ豫防法ヲ
制定スルト同時ニ、人口五十万以上ノ都市及特ニ必要ト認
メタル公共團體ニ對シ、結核療養所ノ設置ヲ命ズルコトヲ
得ルコトニシテ、以テ此病氣ノ豫防撲滅ノ效果ヲ奏シタイ
ト思フノデゴザイマス、是ガ此結核豫防法案ヲ提出致ス理
由デアリマス、次ニ「トラホーム」豫防法案ヲ制定致シマスル
理由ハ、目下我國ニ於ケル「トラホーム」患者ハ、正確ナル數
ハ之ヲ知ルコトハ出來マセヌガ、徵兵檢査ノ結果ニ依ッテ推
算ヲ致シマスレバ、約一千万人ニ達シテ居ルヤウニ思ヒマス、
是亦産業、教育、及國防上、影響スル所甚ダナルモノデ

アリマス、國民的活動上ニ大ナル障礙ヲ與ヘテ居ル次第アリマス、然ルニ之ニ對スル一般ノ法規未ダ備フテ居ラヌノデアリマス、仍テ此際本案ヲ制定シタイト云フ趣意デゴザイマス

〔拍手起ル〕

○議長(大岡育造君) 右兩案委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 議長

○議長(大岡育造君) 岩崎君

○岩崎勳君 兩案ヲ一括シテ、精神病院法案ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ動議ノ如ク決シマス—日程第九農工銀行法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者天春文衛君

第九 農工銀行法中改正法律案(天春文衛君 外十七名提出)

第一讀會

農工銀行法中左ノ通改正ス

第六條第三號中「五分ノ一」ヲ「三分ノ一」ニ改ム

同條第五號中「二十人以上」ヲ「十人以上」ニ改ム

第十三條 貸付金ノ年賦償還ニ付キ据置年限ヲ定ムルトキハ五箇年以内トス但シ其ノ年限内ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス

年賦償還期限前天災事變其ノ他避クヘカラサル事故ヲ生シタル場合ニ於テハ更ニ据置年限ヲ設クルコトヲ得

第二十六條中「五倍」ヲ「十倍」ニ改ム

〔天春文衛君登壇〕

〔拍手起ル〕

○天春文衛君 諸君、私ハ此農工銀行法中改正案ノ提出ノ理由ヲ簡單ニ述ベマシテ、諸君ノ御賛成ヲ希望致シマス次第デアリマス、此農工銀行法ハ、諸君モ御承知ノ如ク、明治二十九年ノ法律第八十三號ヲ以テ發布セラレタモノデアリマシテ、爾來時勢ノ進運ニ伴ヒ、農工業者ノ發展ト共ニ、此法律ノ改正ハ、時勢ニ適應シテ最モ必要ト存ジマスガ故ニ、茲ニ此改正案ヲ提出シタ所以デアリマス、聊カ此各條ニ就テ理由ヲ申上ゲタイト考ヘマス、法第六條ノ第二號中「五分ノ一」トアリマスノヲ「三分ノ一」ニ改メルノデア

リマスガ、其理由ハ現行法ニ於キマシテハ、年賦貸付金總高ノ五分ノ一ニ相當スルマデノ金額ヲ限ラテ、不動産ヲ抵當ト致シマシテ、五箇年以内ノ定期貸付ヲ爲スコトヲ得ト規定サレテアルノデゴザイマス、然ルニ明治四十四年ニ農工銀行貸付ノ目的ヲ、農工業者ニ限ルノ制限ヲ撤廢セラレマシタガ故ニ、爾來市街地等ニモ貸付ガ段々殖エテ參リマスヤウナ場合デアリマス、故ニ此定期貸ノ増加ヲ來シタガ爲メニ、年賦貸付ノ總高ヲ三分ノ一マデ増加セントスルノ希望アルノデゴザイマス、又其次ノ法第六條第五號中ノ「二十人以上」ヲ「十人以上」ニ改メマシタノハ、是ハ現行法ニテハ、二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セテ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルトキハ、其ノ信用ノ確實ナル者ニ限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトト云フコトニナラセ居リマス、然ルニ二十人以上ヲ連帶セシメテ、一手貸與ヘルト云フコトハ、餘程困難デアリマシテ、甚ダ債務者ニ於テモ不便デアリマスナリ、又貸方ノ農工銀行ニ於テモ、容易ニ纏ラナイト云フヤウナ場合デ、兩方トモ甚ダ不便デアリマス、故ニ二十人以上ト云フコトニ改メタルノデゴザイマシテ、此二十人以上ノモノヲ十人ニ縮メマス、或ハ危險ノ虞ガアルトカ云フヤウナ疑モゴザイマシテモ、去リナガラ假令二十人ニシロ、又八十人ニ致シマシテモ、矢張同ジク資産ノ程度信用ノ程度ヲ能ク調査致シマシテ貸與ヘルノデアリマスカラ、決シテ危險ノ虞ハ無イ考ヘルノデアリマス、故ニ此二十人以上ト改メタルノデゴザイマス、又此法第十三條ノ「貸付金ノ年賦償還ニ付キ据置年限ヲ定ムルトキハ五箇年以内トス但シ其ノ年限内ノ利子ハ此ノ限ニ在ラス」ト改メマシタノハ、是ハ現行法ニテハ年賦償還ニ付テハ、必ず一箇年以上五箇年以内ノ据置年限ヲ定メナケレバナラヌコトニナラセ居リマス、然ルニ債務者ガ借入レマシタ際ニ於テ、或ハ一月ナリ乃至半年間ト云フヤウナ場合ニ當テ、必ず一箇年以上ノ据置ヲセナケレバナラヌト云フコトハ、甚ダ不便デアリマス、矢張其年度ノ都合ニ依ッテ、直グ年賦ニ致シテ、サウシテ平等ノ返済ヲスル、斯ウ云フ方法ニナラフガ便利デアリマス、故ニ此一箇年以上五箇年以内ト云フコトヲ、据置年限ヲ定ムルトキハ、唯、五箇年以内トスルダケニ止メタイト思フノデゴザイマス、又次に「年賦償還期限前天災事變其ノ他避クヘカラサル事故ヲ生シタル場合ニ於テハ更ニ据置年限ヲ設クルコトヲ得」ト改メマシタノハ、是ハ年賦期限中ニ天災事變等ガアツテ、既定ノ年賦金ヲ繼續スルコトガ出來ナイ場合ニ於テハ、其事情ヲ斟酌致シマシテ、更ニ中間据置ヲスルノデ、假リ二十年ト定メテアリマスモ、或ハ三箇年後三至テ何カ天災事變等ガ起キマシテ、其年賦金ヲ繼續シテ納メルコトガ出來ヌト

云フトキニハ、其間唯、利息ノミヲ取リマシテ、サウシテ中間ノ据置ヲ二年ナリ三年ナリ致シマシテ、又其上デ年賦ヲ繼續スル斯ウ云フコトニ致シタナラバ、債務者ニ於テ大ニ都合ガ好イト云フ考カラシテ、斯ノ如ク改正ヲ致シタイト云フ考デゴザイマス、ソレカラ法第二十六條中「五倍」ヲ「十倍」ニ改メタルト云フノデアリマス、是ハ農工銀行法ノ現行法ニ於キマシテハ、資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ、拂込金額ノ五倍ヲ限ラテ、農工債券ヲ發行スルコトヲ得ルト云フノ規定デアリマス、然ルニ既ニ全國農工銀行中、其發行限度ニ達セントスルモノガ十二三行モアリマスヤウナ譯デ、此上債券ヲ發行スルコトガ出來ナイト云フヤウナ行モアルノデゴザイマス、殊ニ農工業者ノ振興ヲ圖ラントスルニ方リマシテハ、成ベク低利資金ヲ供給スルハ最モ必要ノ事デアリマス、然ルニ農家ノ負債ノミニテモ、十六七億圓ノ巨額ニ達シテ居ルト云フコトデアリマシテ、而モ其利子ノ如キハ、一割以上或ハ一割五分内外デアルト云フヤウナ、高歩ノ借金ヲ致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマスカラ、農工銀行ニ致シマシテハ、成ベク此債券ヲ發行致シマシテ、サウシテ低利ノ貸金ヲ致スト云フコトハ、即チ農工業者ヲシテ、高歩ナル利息ヲ免レシムルト云フコトノ方針デアレノデゴザイマス、然ルニ一面ニ考ヘテ見マスルト云フト、此農工債券ヲ五倍ノモノヲ十倍ニ許スト云フコトニナリマスルト、或ハ危險ノ虞ガアラウカト云フコトノ疑モ起リマスケルトモ、去リナガラ此債券發行額ハ、矢張年賦低利ノ貸金ノ高以上ハ、超エルトコトガ出來ナイコトニナラセ居ルノデゴザイマスカラ、其發行額ガケケノ資産ハ即チ農工銀行ニアルノデゴザイマス、少シモ危險ハ無イト考ヘルノデゴザイマス、斯様ナ理由ヲ以テマシテ、此農工銀行法ノ改正ヲ望ミマス次第デゴザイマス、尙ホ詳細ノ事柄ハ、委員ヲ設ケラレマシタ以上ニ於キマシテハ、又十分ニ辯明ヲ致シマスケレドモ、大體ノ事柄ヲ申上ゲタ次第デゴザイマス、何卒諸君ノ御協賛ヲ希望致シマス

〔拍手起ル〕

○岩崎勳君 本案ハ議長指名ヲ以テ、九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ナケレバ本案ハ議長指名、九名ノ委員ニ付託スルニ決シマシタ—日程第十、日露語學校設置ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者松本誠之君

第十 日露語學校設置ニ關スル建議案(松本誠之君提出)

日露語學校設置ニ關スル建議
日露兩國ノ親善ヲシテ益敦厚ヲ保持シ兩國國民ノ交誼ヲシテ一層親密ナラシムトセハ相互ノ誤解謬想ヲ排除シ以テ彼我ノ國民性ヲ理解セシムルニ在リ而シテ尙進ムテ兩國ノ貿易其ノ他諸般ノ事項ニ對シ將來一大發展ヲ策セムト欲セハ宜シク哈爾濱ノ地ヲトシ日露語學校ヲ設置スルノ急要ナルヲ認ム依テ政府ハ速ニ其ノ施設ヲ講セラレムコトヲ望ム

(松本誠之君登壇) (拍手起ル)

松本誠之君 本案提出ノ理由ヲ極ク簡單ニ申述セマス、私ガ本案ヲ提出致シマシタ所以ハ、諸君モ御承知ノ通り、先月外務大臣ニ向テ、西伯利ノ事ニ就テ質問ヲ試ミマシタ時ニ當テ、日露語ノ研究ノ必要ハ無イカト云フコトヲ御尋致シマシタラ、最モ必要ト認メテ居ルノミナラズ、又日露ノ語學校ヲ拵ヘタイト云フ考モ無イコトハナイ、斯ウ云フ御答辯デアリマシタ、ソレニ就キマシテハ、日露兩國ノ親善ヲシテ、益敦厚ヲ保持シ、兩國國民ノ交誼ヲシテ一層親密ナラシメントスルニハ、相互ノ誤解謬想ヲ排除シテ、以テ彼我ノ國民性ヲ理解セシメバナラズト信ジマシテ、自分モ熱誠ノ餘リ此案ヲ出シタヤウナ次第デゴザイマス、申スマデモナク言葉ノ必要ナルコト、人生ノ社會ニ處スル上ニ於テハ、言語ノ疏通了解ヲ得ルト云フコトガ、第一ノ要件デアラウト信ジテ居リマシタ、又言語ノ不了解ヨリシテ、毫厘ノ差ハ逾ニ千里ノ過ヲ來スヤウナコトニモナル次第デアリマス、我が大日本帝國ガ將來北ニ向テ西伯利ニ進ンデ、貿易上商業上ニ於テ、大ナル手足ヲ伸バシ上ニ於キマシテ、而シテ彼我兩國ノ利益ヲ圖ルト云フ事ニ就テカヲ入レル上ニ於キマシテハ、ドウシテモ日本人ヲシテ露西亞語ヲ十分ニ研究セシメ、露西亞人ヲシテ日本語ヲ十分ニ覺エシメルト云フ事ガ、總テノ上ニ就テ、何ヲ爲ス上ニ就キマシテモ、今日將來ニ於テ最大ノ急務ト自分ハ深ク之ヲ認メテデアリマス、ソコデ彼方ハ參リマシテ聞ク所ニ依リマシタ、西伯利ハ軍隊ヲ日本ガ派遣サレマシタ時分カラシテ、露西亞語ヲ生嚙リノ人間ヲバ餘程澤山軍隊ニ使用サレマシテ、サウシテ露西亞人トノ間ノ總テノ便宜上ニ使用サレタト云フコトデアラ、ケレドモ其生嚙リノ露西亞語ノ爲メニ、露西亞人ト日本ノ軍隊トノ間ニ於テ、折々意思ノ疏通ヲ缺キ、或ハ作戦ノ上、又軍隊ノ上ニ於テモ、間違ヲ隨分言語ノ過カラ、疏通致シマセ又所カラシテ——來シタト云フコトヲ聞イタ次第デゴザイマ

ス、又日本ノ同胞兄弟ガ哈爾濱、滿州里、彼ノ西伯利地方ニ數多入込シテ、貿易業或ハ商業ニ從事シテ居リマスガ是等ノ人ノ中ニ於キマシテモ、露西亞ノ研究、露西亞ニ熟達シテ居ルト云フコトガ少イ、又露西亞人ニ於キマシテモ、日本語ヲ十分ニ研究致シ、日本語ニ通ジテ居ルト云フ人間モ實ニ少イデアリマス、我が日本帝國ガ支那々々ト言フテ、支那問題ニ就テハ朝野ノ人ガ學テ研究セラレテ、數年前ヨリ支那人ニ於キマシテモ、競ウテ我が帝國ノ日本語ニ熟達セシコトヲ欲シ、研究セシコトヲ致シ、又日本人ニ於キマシテモ、支那語ト云フモノハ最モ必要デアラト言フテカヲ入レテズト以前ヨリ諸君ノ御承知ノ通り、上海ニ同文書院ナルモノガアテ、今日ニ於キマシテハ年々百名内外ノ卒業者ヲ出シテ居ルノデアリマス、此卒業者ガ支那ノ大陸ニ居リ、或ハ日本ニ歸リ、總テノ上ニ於テ、ドレ位今日マデ國家ニ貢獻ヲ致シテ居ルカト云フト、實ニ偉大ナル働ヲ爲シテ居ルト云フコトハ、諸君モ御認ニナテ居ルト考ヘマス、前段申シマシタ通り、露西亞人ニシテ日本語ニ熟達スル者最モ少シ、日本人ニシテ露西亞ニ通ズル者最モ少シ、帝國ガ將來北ニ向テヤラント欲シ、此日露ノ貿易ヲ盛ニ爲シ、總テノ上ニ於テ兩國ノ利益ヲ圖リ、發達ヲ期セントスル上ニ於テハ、此樞要ナル中心ナル哈爾濱ノ地ヲトシテ、此日露語學校ヲ設置スルト云フコトハ、今日ノ最大急務ト深ク信ジマシタガ故ニ、此案ヲ出シタ次第デゴザイマス、冀クハ諸君ニ於テモ、是ハ國家ノ爲メニ御賛成下サルト同時ニ、政府ニ於テモ宜シク之ヲ採用サレテ、一日モ早ク此施設方法ヲ講セラレンコトヲ、自分ハ深ク望シテ止マザル次第デゴザイマス

(拍手起ル)

岩崎勳君 本案ハ議長指名ヲ以テ、九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

議長(大岡育造君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

議長(大岡育造君) 御異議ナシト呼フ者アリ

經營施設ヲ要スヘキ秋ニ際シ益其ノ感ヲ深フ故ニ現行農商務省官制中農務ニ屬スル局課ヲ統一シテ農務省ヲ新設スルコト極メテ機宜ニ適シタルモノト認ムルヲ以テ政府ハ速ニ之ヲ實施セラレムコトヲ望ム

(齊藤宇一郎君登壇) (拍手起ル)

齊藤宇一郎君 唯今議題ニナテ居リマス、農務省新設ニ關スル建議案ノ提案ノ趣旨ヲ簡單ニ述ベマス、農商務省ハ、國富ノ涵養ニ關スル諸般ノ政務ヲ掌テ居ル所デアリマス、而シテハ國民ノ生活ニ要スル總テノ物資ノ供給ヲ完全ニスル政策ヲ實行シナケレバナラス所ノ、大切ナル一省デアリマス、隨テ事務ノ繁多複雑ナルコトハ、他ノ省ニ比シテ實ニ數倍ニナテ居ルデアリマス、殊ニ時局以來生活問題ハ非常ニ八釜數クナリマシタ、隨テ農商務省ニ屬シテ居ル所ノ政務ガ非常ニ繁多複雑ヲ加ヘテ參タクコトハ、既ニ諸君ノ御承知ノ事デアリマス、現ニ大正八年度ノ豫算ヲ見マシテモ、商工局ヲ二ツニ分ケテ、事務ヲ執ラナケレバナラス程ニナテ參タクデアリマス、實ニ生活物資ノ豐富ナラヌコトヲ望ミマス爲メニハ、農務ニ屬スル所ノ、仕事ガ非常ニ殖エテ參ルコトハ、申スマデモナイデアリマス、此生産方面ノ發達ヲ圖テ、大切ナル國民ノ生活ニ安定ヲ與ヘルヤウニ致シマスニハ、ドウシテモ當ニ内地ノミナラズ、植民地ニマデモ互テ、統一シタル所ノ、政策ヲ施カネバナラスコトハ、申スマデモナイ事デアリマス、果シテ然リトスレバ、此農商務省ニ於ケル仕事ハ、非常ニ殖エテ參ルデアリマス、其敏活ヲ圖リ、十分ナル活動ヲ爲スニハ、是等ノ非常ナル分量ノアル所ノ、仕事、非常ニ六ヶ敷イ政務ヲ一省ニ纏メテ置クコトハ、甚ダ不利益ナルコト、考ヘルノデアリマス、故ニ吾々ノ考フル所ニ依リマスレバ、將來益々發達ニナリマス所ノ、生活物資ノ供給ヲ安全ニ爲スベキ事務ヲ事トシテ扱フ所ノ、農務ニ屬スル政策ヲ分ケマシテ、茲ニ農務省ト云フモノヲ新設シテ、而シテ此方面ニ力ヲ盡サナケレバ、日本ノ將來ニ於ケル生活上ノ問題ヲ解決スル上ニ於テ、甚ダ缺クル所アルダラウト斯ウ考ヘマシテ、茲ニ建議案ヲ提出シタ次第デゴザイマス、此問題ハ頗ル重要ナル政務ニ屬スルノデアリマス、委員會ニ付シテ、政務當局トモ十分意見ノ交換ヲ爲シ、研究ヲシテ滿場一致ヲ以テ可決セラレンコトヲ望ムデアリマス、簡單ニ提案ノ理由ヲ述ベマス

(拍手起ル)

議長(大岡育造君) 日程ノ順ヲ變ヘルダケヲ諸君ノ御承知ヲ請ヒマス

○岩崎勳君 本案ハ議長指名、九名ノ委員ニ付託セラレ
ンコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマ
セヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ本案ハ議長指
名、九名ノ委員ニ付託スルニ決シマシタ、日程第十一、松本
鐵道建設ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者高島
順作君

○醫學博士金杉英五郎君 精神病院法案ノ委員會ヲ開
キタウゴザイマスカラ、許可ヲ願ヒマス

○議長(大岡育造君) 許可致シマス

○醫學博士金杉英五郎君 委員ノ諸君ハ委員會ハ御集
リヲ願ヒマス

第十一 松本鐵道建設ニ關スル建議案 高島
順作君外五名提出)

松本鐵道建設ニ關スル建議

一 北陸線新潟縣下糸魚川ヨリ中央線長野縣下松本ニ
至ル鐵道

右鐵道ハ中央北陸兩線連絡ノ捷路線ナリ故ニ本線敷
設ハ軍事上ハ勿論産業上ニ於テモ最必要ナルハ疑フ容
レヌ

政府ハ速ニ本鐵道敷設ノ計畫ヲ立テ以テ地方無限ノ富
源ヲ開發シ國家經濟ノ發達ヲ圖ラレムコトヲ望ム
右建議ス

〔高島順作君登壇〕

〔拍手起ル〕

○高島順作君 私ハ松本鐵道建設ニ關スル建議案ニ就
キマシテ、一言申上ゲマシテ諸君ノ御賛成ヲ乞ハント欲スル
者デアリマス、此建議ノ鐵道ハ、新潟縣糸魚川ヨリ長野縣
松本市ニ達スル鐵道デアリマス、其延長ハ六十三哩九分ア
ルノデアリマシテ、工費ハ鐵道院ノ調ニ依リマス、四百八
十萬圓ヲ要スルト云フコトデアリマス、即チ本線ハ裏日本ヨ
リ表日本ニ貫通シマスル本州中央橫斷線ノ一部デアリマ
シテ、非常ニ必要ナル線路デアリマス、此線路ニ就キマシテ
ハ、二十六議會以來屢々本會ニ建議ヲサレマシテ、何時モ
可決ニナラズ居ルノデアリマス、殊ニ昨年即チ第四十議會ニ
於キマシテハ、各派ヨリ御提出ニナリマシテ、御賛成ヲ得テ
アルノデアリマスカラ、此場合ニ於テハ私ハ説明ヲ省略致シ
テ置キマス、唯、茲ニ一ツ言明シテ置キタイコトハ、本線ハ明
治二十九年三月私設鐵道會社ヲ計畫致シマシテ、富山ヨ

リ直江津マデト、唯今ノ糸魚川ヨリ松本マデ通ズル鐵道ヲ
八百五十萬圓ノ資本ヲ以テ計畫サレタ鐵道デアリマス、隨
分古イ鐵道デアリマスガ、其一部分豫定線デアルト云フコト
デ許可ニ相成ラヌノデアリマシタ、最早時節モ未テ居ル鐵
道デアルト思ヒマスカラ、今回ハ諸君ノ御賛成ニ依リテ目的
ヲ達シタイト思フノデアリマス、ドウゾ御賛成下サルヤウニ願
ヒマス

○岩崎勳君 本案ハ議長指名ヲ以テ、九名ノ委員ニ付託
セラレシコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセ
ヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ、本案ハ議長指
名九名ノ委員ニ付託スルニ決シマシタ、日程第十二、
農工銀行補助法第七條實施ニ關スル建議案ヲ議題ト致
シマス、提出者土井權大君

第十三 農工銀行補助法第七條實施ニ關スル
建議案(中倉万次郎君外十名提出)

農工銀行補助法第七條實施ニ關スル建議

政府ハ農工銀行補助法第七條ニ依リ市町村ニ交付ス
ルコトヲ得ヘキ府縣農工銀行株式ヲ此ノ際直ニ市町村
ニ交付シ産業基本財産トシテ斯業ノ發達ヲ助長セシム
ル方策ヲ講セラレムコトヲ望ム
右建議ス

〔土井權大君登壇〕

〔拍手起ル〕

○土井權大君 極メテ簡單ニ説明ヲ致シマス、提出者ハ
中倉万次郎君外數名デアリマス、御存シノ通り今ヲ去ルコ
ト二十三年以前ニ於テ、農工銀行法ガ公布サレタノデアリ
マス、其目的トスル所ハ、地方産業ノ發達、特ニ小サキ農業
小サキ工業ノ發達ヲ圖ル爲メニ設立サレタルコトハ、諸君ノ
御存シノ通りデアリマス、ソレト同時ニ此農工銀行ヲ補助
シナケレバナラヌト云フノデ、農工銀行補助法ト云フモノガ
其當時公布サレテ居リマス、其農工銀行補助法ノ一條ヲ
眺メマスト、斯ウ云フ事ガアリマス「農工銀行法ニ依リ設立
スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲メ政府ハ豫算ニ定ムル所
ニ從ヒ其ノ營業區域ヲ管轄スル府縣ニ其ノ株式引受資金
ヲ交付ス」斯ウ云フコトニ相成シテ居リマス、北海道及沖繩
縣ニ對スル農工銀行ニハ、別ニ條文ガアリマスカラ、其他ノ府
縣ハ唯、一ツ申上ゲタ條文ノ適用ヲ受ケマシテ、ソレノ交
付金ヲ受ケテ居リマス、而シテ其交付金ガ、現在ニ於テ幾ラ
ニナラズ居ルカト計算致シマスト、約一千万圓ニ達シテ居

リマス、而シテ此創立當初ヨリ十五箇年ハ、其府縣ノ持株
ニ對シテハ配當ヲシナイデモ宜イ、後ノ五箇年ノ利益配當
ハ府縣ノ收入ニ繰入レル、斯ウ云フコトニナリマシテ、二十
年ヲ經過シタ後ニ於テハ、必ズ是ハ府縣ノ收入ニ繰入レナ
ケレバ、配當シナイト云フコトハ出來ナイ、又其銀行ノ繰入
金ニスルコトモ出來ナイ、斯ウ云フ法律ニナラズ居リマス、ソ
コデ第七條ヲ眺メマスト「農工銀行創立初季ヨリ二十箇
年經過ノ後府縣知事ハ府縣會ノ決議ヲ經内務大臣及大
藏大臣ノ認可ヲ得テ此法律ニ依リ引受ケタル農工銀行ノ
株式ヲ市町村ニ交付スルコトヲ得」市町村ハ前項ニ依リ
交付セラレタル農工銀行ノ株式ヲ基本財産ト爲スヘシ」斯
ウ云フコトニ相成シテ居リマス、ソレガ即チ農工銀行ノ補助
法ノ極ク概要デアリマスカラ、最早此二十年ヲ大抵ノ農工銀
行ハ經過致シテ居リマス、故ニ府縣ノ持株ト云フモノハ、當
然府縣ガ配當ヲ受クルノデアリマスカラ、併シ法律ノ精神カ
ラ考ヘマスト、二十年後ニ於テハ、必ズ之ヲ府縣ノ市町村
ニ交付シテヤレト、斯ウ云フヤウニナラズ居テ飽マデモ地方
ノ産業ノ發達、小サキ農業、小サキ工業ノ發達ヲ圖ルト云フ
法律ノ精神デアリマス、所ガ現在ニ於テハ、法律ノ精神ハ左様
デアリマスガ、此補助法ガ出來タ當時ノ沿革ヲ調ベマスト
ニ二十年經過タナクテモ、五箇年ヲ經過シタナラバ、市町村
ニ交付シタラ宜カラウト云フ法律ニナラズ居ラバ、市町村
所ガ段々ソレレハ農工銀行ノ獨立ガ圖レナイ、ソレ故ニモウ
少シ保護ヲ與ヘタナラバドウデアアルカト云フノデ、二十年箇年
間保護ヲ與ヘテアタヤウナコトニナラズ居テアリマスガ、御
存ジノ通り、最早何レノ農工銀行モ其基礎ハ堅實トナリ、
此保護ヲ受ケル必要ハナイト云フ状態デアリマスカラ、此時
ニ方々直チニ此第七條ノ適用ヲ承ケマシテ、府縣ニ此一
千万圓ノ金ヲ交付スルト、斯ウ云フヤウニシタラドウデア
カト云フノガ、提案ノ理由デゴザイマス、又此法律ノ沿革ハ、
唯今申上ゲタガ如キ沿革ヲ有テ居リマス、ソレニ付キ間ク
所ニ依リマスト、日清戰爭後ニ於テ、清國ヨリ償金ヲ日本
ガ受取りマシタ時、此戰後ノ餘澤ト云フモノヲ國民一般ニ普
及シヤウ、ソレニ就テハ金ヲ分ケテヤルノモ如何ト思フ、故ニ
先ヅ此農工銀行ノ方ニ豫メ交付シテ置イテ、小サキ農業、
小サキ商業ノ發達ニ赴クヤウニ、此金ヲ使ハセタラドウカト
云フガ如キ沿革デアルト云フコトヲ、聞イテ居ルノデアリマ
ス以上ノ如キ理由ト沿革デアリマスカラ故ニ、此際政府ハ
農工銀行補助法第七條ニ依リ、市町村ニ交付スルコトヲ
得ヘキ府縣農工銀行株式ヲ、此際直チニ市町村ニ交付シ、
産業ノ基本財産トシテ、斯業ノ發達ヲ助長セシムル方策ヲ
講セラレシコトヲ望ム、斯ウ云フ建議デゴザイマス、ドウゾ滿
場ノ御賛成ヲ願ヒマス

〔拍手起ル〕

○岩崎勳君 本案ハ日程第九ノ委員ニ併セテ付託セラレ
ンコトヲ望ム

○議長(大岡育造君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハゴザイマ
セヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ、日程第九ノ委
員ニ併セテ付託スルコトニ決シマス

○岩崎勳君 日程第十四ニ對シテ、延會ノ動議ヲ提出致
シマス

○議長(大岡育造君) 日程第十四延期ノ御申出ガアリ
マシタガ、御異議アリマセンカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ナケレバ延期ニ致シマス、
日程第十五、東方調査局設置ニ關スル建議案ヲ議題ト致
シマス、委員長伊東知也君

第十五 東方調査局設置ニ關スル建議案(伊
東知也君提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

〔伊東知也君登壇〕
〔拍手起ル〕

○伊東知也君 本委員會ハ會議ヲ開キマスルコト三回、
政府委員幣原外務次官、松田大使館參事官ノ出席ヲ得
マシテ、慎重審議ニ討議ヲ致シマス、其結果政府委員ノ
意見ト致シマシテモ、本案ハ實ニ重大ナル案件デアッテ、政
府ニ於テモ多少其意ヲ酌シテ、著手ノ一端トシマシテ、昨
年來亞細亞局設置ト云フコトヲ企テタ、併ナガラ豫算ノ都
合其他ニ依ッテ未ダ實行ヲ見ルニ至ラナイガ、此本案ノ趣
旨ニ對シテハ、十分ナル賛成ヲ表スルコト云フコトヲ申サレマ
シタ、其委シイ點ニ就キマシテハ、委員會ノ會議録ニ載ッテ
居リマスカラ、御覽ヲ願ヘバ分ルコトデアアル、委員諸君モ一
人ノ異議者無ク、滿場一致、然モ政府ヲシテ、成ベク速ニ
本案ヲ實行セシメルト云フ條件ノ下ニ本案ガ可決致シマシ
タ、此段御報告シマス

〔拍手起ル〕

○岩崎勳君 本案ハ委員長報告ノ通り可決セラレンコト
ヲ希望シマス

○議長(大岡育造君) 委員長報告ノ通り御異議アリマ
セヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ委員長報告ノ
通り決シマス、日程第十六、朝鮮平元鐵道急設ニ關スル建
議案ヲ議題ト致シマス、委員長一宮房治郎君

第十六 朝鮮平元鐵道急設ニ關スル建議案(牧
山耕藏君外五名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

〔一宮房治郎君登壇〕
〔拍手起ル〕

○一宮房治郎君 朝鮮平元鐵道急設ニ關スル建議案委
員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、本鐵道ハ、朝鮮西
部ノ大商工業地タル平壤カラシテ、東海岸ノ要港タル元山
トヲ連絡スル、約百六十哩ノ鐵道ノ建設ヲ望ムト云フ案デ
ゴザイマス、本委員會ヲ三回之ヲ開會致シマシテ、政府當
局者ノ出席ヲ求メマシテ、慎重審議ヲ盡シマシタ、先ヅ最
初ニ提案者タル牧山耕藏君カラシテ、本鐵道ノ建設ハ、東
ハ朝鮮半島ヲ横貫シテ、遠ニ日本海ヲ隔テ、裏日本タル所
ノ北陸ニ連ナリ、西ニ於テハ海ヲ隔テ、支那ノ要港デア
ル所ノ青島ニ連絡スル、朝鮮開發上最モ必要ナル鐵道デア
ルテ、本鐵道ノ建設ハ、朝鮮ニ於ケル交通政策上、一大革命
ヲ來スモノデアルト云フ說明ガゴザイマシタ、政府委員ハ之
ニ對シテ、廟議ハ未ダ決定ハシテ居リマセヌトコトデア
ルガ、朝鮮總督府トシテハ、本鐵道ハ最モ朝鮮ノ鐵道政策上
必要ナルモノト認メテ、明治三十九年以來數年ノ間是ガ
測量ニ著手シテ、既ニ其採擇線ヲ決定致シマシテ、出來
得ベク本年年度カラシテ其豫算ヲ計上シテ、大正十四年
度ニ於テ、咸鏡線ノ竣工ト共ニ之ヲ完成シタイ所ノ希望ヲ
持ッテ居ルト云フ御答辯ガゴザイマシタ、朝鮮總督府ニ於テ
ハ、是非トモ是ガ急設ヲヤリタイト云フコトヲ言明サレマシ
タ、陸軍次官ニ於キマシテハ、京義、京釜、複線ニ比較研
究スレバ、先ヅ此複線ノ方ヲ急設ヲシタイト思ヒマスガ、本
線モ軍事上必要ナル線ト認メテ居ルヤウナ意見ガゴザイマ
シタ、委員會ニ於テハ慎重審議ノ結果、本鐵道ハ朝鮮開發
上最モ必要ナル鐵道デアアルカラシテ、至急其開設ヲ望ムト
云フコトニ滿場一致ヲ以テ決議ヲ致シマシタ、唯、一部委
員ノ間ニ於キマシテハ、本鐵道ノ財源ニ付テ、從來朝鮮鐵
道經營ノ成績カラ考ヘテ見マスルト、本鐵道開通ノ曉ニ於
テ、其收入ガ果シテ財源トシテ、借入又ハ公債ニ依ッテ所
資本ニ對シテ、適當ナル利廻ノ收入ガアルヤ否ヤト云フコト
ニ付テハ、政府委員ノ答辯ガ甚ダ不満足デアアルガ、先ヅ朝
鮮開發上缺クベカラザル鐵道デアアルカラシテ、是ノ開設ニハ
異議ハ無イト云フヤウナ少數意見モゴザイマシタガ、結局滿
場一致ヲ以テ、政府ハ速ニ本鐵道ヲ開設サレルコトヲ望ム
ト云フコトニ決議致シマシタ、此段委員會ノ經過ヲ御報告

致シマス(拍手起ル)

○岩崎勳君 本案ハ委員長報告ノ通り可決セラレンコト
ヲ望ム

○議長(大岡育造君) 委員長報告ノ通り御異議アリマ
セヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ナシト認メマス、仍テ可決
致シマシタ、日程第十七、伊萬里、佐世保間鐵道建設
ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、委員長中倉万次郎君

第十七 伊萬里、佐世保間鐵道建設ニ關スル
建議案(中倉万次郎君外四名提出)

〔中倉万次郎君登壇〕
〔拍手起ル〕

○中倉万次郎君 付託ヲ受ケマシタ此伊萬里、佐世保間
鐵道建設ニ關スル建議案、委員會ノ經過並ニ結果ヲ報告
致シマス、本委員會ハ前後三回開キマシタ、此線路ハ佐世
保鎮守府ノ背面ニ當ッテ居リマシタ、軍事上ノ關係モアリ
スル所カラ、政府當局者モ、海軍ノ當局者並ニ鐵道院ノ當
局者ノ出席ヲ求メテ、質問應答ヲ致シマシタ、先ヅ以テ海
軍當局者ニ意見ヲ某委員ヨリ質問致シマシタ、海軍次官
ガ出席サレマシテ、此線ニ沿フ所ノ地方ハ、大ニ海軍ノ軍事
上ニモ關係ヲ有シテ居ル處デアアル、無論此鐵道ノ開設シ
テ差支ナイノミナラズ、是ガ全通シテ曉ニ於テハ、非常ニ便利
ヲ得ル線路デアアル、斯ウ云フ答辯ガアリマシタ、ソレヨリ牧
山君ヨリ鐵道院ノ政府委員ニ質問ガアリマシタ、鐵道院ノ
政府委員ノ答辯ハ、政府ニ於テモ此線路ニ就テハ、先年ヨ
リ調査ヲ致シタコトガアル、哩數ハ四十五哩ニシテ、線路ノ
工事ハ餘リ困難ナ場所デハナイ、哩數ガ十五哩ニシテ、豫
算ヲシテ居ルノデアアル、此調査シタ當時ノ明治四十四年
十一月ノ調査ニ依ッテ、其物貨ノ集散、旅客ノ數等ヲ調査
致シテ、鐵道經濟ノ上カラ見レバ、餘リ損モナケレバ、大シタ
利益デモナイト云フ位ノ算盤ガ出テ居ル處デアアルガ、今日
總テノ事柄ガ進歩シテ居ル時デアッテ、殊ニ石炭灰ガ彼ノ地
方ニ於テハ、其時ヨリカ數十倍増加シテ居ル所カラ計算シ
タナラバ、利益ノアル線ト考ヘテ居ルノデアアル、豫算ノ都合
ニ依ッテ、未ダ一期線ニ組入レルコトニハナク、居ナイケレド
モ、成ベク速ニ之ヲ一期線ニ組入レテ建設シタイト云フ考
ヲ持ッテ居ルト云フ答辯ガゴザイマシタ、ソレカラ又一面ニハ
先年此本會ニ於キマシテ決議ニナッテ居リマスル建議案、即
チ福岡縣ヨリ佐賀縣ノ唐津伊萬里ヲ經テ、今ノ建議案ニ接

續スル線路ノ一部、伊万里マデハ、昨年何月カニ私設鐵道ニ許可ニナテ居ル、其私設鐵道ノ許可ニナテ居ル所ノ内容等ニ就テモ質問ガアリマシタガ、之ニ對シテモ鐵道院ノ政府委員ヨリ説明ガゴザイマシテ、他ニハ一人ノ質問者モ無クシテ質問ハ終了致シマシタ、第三回ニ於テ討論ニ移リマシテ、審議ヲ致シマシタ所、南里塚一君ガ賛成ノ意見ヲ發表サレマシテ、西君ガ賛成サレマシテ、他ニハ異議ガアリマセヌノデ、満場一致デ可決スベキモノト決定致シマシタ、此段御報告致シマス

〔拍手起ル〕

○岩崎勳君 本案ハ委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 委員長報告通り御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ可決シタルコトヲ宣告致シマス、日程第十八、第十九ハ、同一委員ニ付託シタル議案ナルニ依リ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ、第十八、羽越橫斷鐵道建設ニ關スル建議案、第十九、若松、柳津間輕便鐵道建設ニ關スル建議案ヲ一括シテ議題ト致シマス、委員長小林源藏君

第十八 羽越橫斷鐵道建設ニ關スル建議案(小林源藏外七名提出) (委員長報告)

林源藏外七名提出

第十九 若松、柳津間輕便鐵道建設ニ關スル建議案(八田宗吉外四名提出) (委員長報告)

八田宗吉外四名提出

〔小林源藏君登壇〕

〔拍手起ル〕

○小林源藏君 羽越橫斷鐵道建設ニ關スル建議案、並ニ若松、柳津間輕便鐵道建設ニ關スル建議案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、兩案ニ對シテ委員會ヲ開クコト三回、政府委員ト質問應答ヲ致シ、慎重ニ審議ヲ重ネマシテ、羽越橫斷鐵道ナルモノハ、政府委員ニ於テモ、委員側ニ於キマシテモ、徹底的ニ其必要ヲ認メテ居リマシテ、唯、何時ニ於テ建設ニ着手スルカト云フコトニ就テ、專ラ政府委員ト質問應答ヲ致シタ次第アリマスカ、政府委員ノ答辯ニ依リマスト、固ヨリ此鐵道線路ノ必要ヲ認メテ居ルバカリデナク、山間ノ鐵道トシテハ、外ニ類例ヲ多ク見ザル良イ線路デアアル、線路ノ延長五十二哩、勾配モ六十分

ノ一ヲ以テ通過スルコトガ出來ル、ソレデ豫算ノ許ス範圍ニ於テ、近キ將來ニ於テ此線路ハ建設ニ著手シタイト思フテ居ルト云フ答辯ヲ得タデアリマス、ソコデ委員側ニ於キマシテハ、全會一致此建議案ハ、本院ニ於テ可決スベキモノト決定致シタル次第アリマス、若松、柳津間輕便鐵道建設ニ關スル建議案ニ就キマシテモ、同ジク政府委員ト質問應答ヲ致シマシテ、慎重ニ審議ヲ重ネマシタガ、是ハ政府ニ於テマダ詳細ク調査ハ致シテ居ラヌカラシテ、何レ此建議案ノ趣旨ニ基キテ、調査ニ著手シヤウト云フコトデアリマシタ委員側ニ於キマシテハ、此線路ハ若松、柳津間ニ於ケル地方ノ交通ニ資スルハカリデナク、柳津ハ正ニ只見川沿岸ニ於ケル大森林ノ咽喉ヲ扼シテ居リマスノデ、此鐵道一タビ開通致シマシタナラバ、政府既成線ノ榮養線トシテ非常ニ利益アルバカリデナク、其大森林ヲ開發シ、國家ノ富ヲ殖ス上ニ於テ、實ニ必要ナル線路デアルト委員側ニ於テ認メマシテ、是亦全會一致ヲ以テ本院ニ於テ可決スベキモノト決定致シタル次第アリマス、右御報告申上マス

〔拍手起ル〕

○岩崎勳君 日程第十八、十九兩案ヲ一括シテ、委員長ノ報告通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 兩案共御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ委員長ノ報告通り可決致シマシタ、日程第二十乃至三十一ハ、請願特別報告ナルニ依リ、例ニ依リ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メマス、佐々木文一君

第二十 (特別報告第四十二號)産業組合ニ對シ印紙稅免除ノ請願 (委員長報告)

シ印紙稅免除ノ請願

第二十一 (特別報告第四十三號)製鹽特別賠償價格制定ノ請願 (委員長報告)

賠償價格制定ノ請願

第二十二 (特別報告第四十四號)特別用鹽規則中缺追加ノ請願 (委員長報告)

規則中缺追加ノ請願

第二十三 (特別報告第四十五號)專賣官吏派出所設置ノ請願 (委員長報告)

派出所設置ノ請願

第二十四 (特別報告第四十八號)質屋取締法中改正ノ請願外一件 (委員長報告)

法中改正ノ請願外一件

第二十五 (特別報告第五十一號)仙臺地方裁判所石卷支部權限復舊ノ請願 (委員長報告)

裁判所石卷支部權限復舊ノ請願

第二十六 (特別報告第五十四號)大田、三次間輕便鐵道測量及速成ノ請願 (委員長報告)

間輕便鐵道測量及速成ノ請願

間輕便鐵道測量及速成ノ請願

第二十七 (特別報告第五十五號)上越鐵道速成ノ請願 (委員長報告)

第二十八 (特別報告第五十六號)上越鐵道敷設工事急施ノ請願 (委員長報告)

第二十九 (特別報告第五十七號)池田、川之間鐵道敷設ノ請願 (委員長報告)

第三十 (特別報告第五十八號)津山、新見間鐵道敷設速成ノ請願 (委員長報告)

第三十一 (特別報告第六十一號)都城、福島間鐵道敷設ノ請願 (委員長報告)

〔拍手起ル〕

佐々木文一君登壇

○佐々木文一君 請願委員會ノ結果ヲ御報告申上デマス、特別報告第四十二號産業組合ニ對シ印紙稅免除ノ請願、請願人ハ秋田縣秋田市茶町有限責任秋田共益信用組合長河村周吉外六十二名ノ呈出ニシテ、紹介議員ハ齋藤宇一郎君デゴザイマス、本件ハ院議ニ付スベキモノトシテ採擇ニ決シマシタ、特別報告ノ四十三號、製鹽特別賠償價格制定ノ請願、德島縣板野郡撫養町近藤爲五郎外百八十名ノ請願デアリマシテ、紹介議員ハ高島兵吉君デゴザイマス、本件モ亦同様院議ニ付スベキモノトシテ採擇ニ決シマシテゴザイマス、特別報告ノ四十四號、特別用鹽規則中缺追加ノ請願、青森縣青森市大宇大町松森豊外一名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ工藤卓爾君デゴザイマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、特別報告ノ四十五號、專賣官吏派出所設置ノ請願、廣島縣賀茂郡三津口村長上田榮造ノ請願デアリマシテ、紹介議員ハ花井卓藏君外一名デゴザイマス、本件モ委員會ニ於テ採擇ト決シマシタ、特別報告ノ四十八號、質屋取締法中改正ノ請願、是ハ德島縣德島市助任西町、德島縣德島市名東郡質屋組合組長清水役藏外十九名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ岡村爲三郎外十八名ノ呈出デアリマシテ、紹介議員ハ高島兵吉君デアリマス、右兩件トモ採擇ニ決定致シマシテゴザイマス、特別報告ノ五十一號仙臺地方裁判所石卷支部權限復舊ノ請願、宮城縣牡鹿郡石卷町ノ武山一郎外三百二十一名ノ呈出ニ係リマシテ、紹介議員ハ遠藤良吉君外六名デゴザイマス、本件モ採擇ト決シマシタ、特別報告ノ五十四號、大田、三次間輕便鐵道測量及速成ノ請願、島根縣安濃郡大田町長檜崎錄三郎外百八十八名ノ請願デアリマシテ、紹介議員ハ恒松隆慶君外三名デゴザイマス、本件モ採擇ト決シマシタ、特別報告ノ五十五號、上越鐵道

速成ノ請願、群馬縣群馬郡澁川町長羽鳥年太郎呈出、紹介議員ハ武藤金吉君アリマス、本件モ採擇ト決シマシテゴザイマス、次ハ特別報告ノ五十六號、上越鐵道敷設工事急施ノ請願、請願人ハ群馬縣高崎商業會議所會頭小島彌平ノ請願デゴザイマシテ、紹介議員ハ土谷全次君デゴザイマス、本件モ採擇ト決シマシテ、特別報告ノ五十七號池田川ノ江開鐵道敷設ノ請願、請願人ハ愛媛縣宇摩郡川ノ江町一柳藤市外四名アリマス、本件モ採擇スベキモノト決シマシテ、特別報告ノ五十八號、津山新見開鐵道敷設速成ノ請願、請願人ハ岡山縣吉田郡津山町長三好次男外六十名ノ呈出デゴザイマシテ、紹介議員ハ福井三郎君デアリマス、本件モ採擇ト決シマシテ、特別報告ノ六十一號、都城福島間鐵道敷設ノ請願、請願人ハ宮崎縣北諸縣郡高城村ノ新穂千秋外二百六十五名ノ請願デゴザイマシテ、紹介議員ハ陣軍吉君外三名アリマス、本件モ採擇ニ付スベキモノトシテ採擇ト致シマシテ、以上御報告ヲ申上ゲマス(拍手起ル)

特別報告第四十二號

意見書

請願文書表第五三〇號

産業組合ニ對シ印紙稅免除ノ請願 秋田縣秋田市茶町梅千三十二番地有限責任秋田共益信用組合長河村周吉外六十二名呈出(紹介議員齋藤守一君)

右請願ノ要旨ハ今般世界動亂ノ終熄後ハ先國民經濟ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルコトヲ要ス之カ鞏固ノ期セムニハ産業組合ノ活動ニ俟テ所大ナリ何トナレハ産業組合ハ國民ノ多數ヲ占ムル下層社會ニ於ケル經濟界ノ弱者ヲ以テ組織セル公共團體ニシテ之等多數國民ノ零細ノ貯蓄取扱ヲ使命トスル公益的機關ナレハナリ然ルニ政府ハ該組合ニ對シ一般商會社ニ對スル同種證書又ハ通關ニ對シ印紙稅ヲ課シ居レリ就中銀行預金證書ハ僅ニ三錢ノ印紙稅ヲ課シ居ルニ拘ラス産業組合ニ對シテハ記載金高一萬分ノ五ニ相當スル印紙稅ヲ徵スルハ公平ヲ失スルモノナリト謂ハルヘカラス依テ印紙稅法ニ改正ヲ加ヘ産業組合ニ對シテハ之ヲ免稅セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第四十三號

意見書

請願文書表第四四八號

製鹽特別賠償價格制定ノ請願 德島縣板野郡養父町立岩九番屋敷近藤爲五郎外八十名呈出(紹介議員高島兵吉君)

右請願ノ要旨ハ德島縣下阿波濱ノ製鹽業ハ鹽賣法實施以來十洲鹽田區域ニ編入セラレ爲ニ賠償價格ニ改定ヲ來シ專賣法施行以前ノ如ク之カ生産費ヲ補フ途ヲ失ヒ製鹽業者ハ祖先傳來ノ事業ヲ繼

續スル能ハサル悲境ニ陥リタリ殊ニ阿波濱ノ製鹽業タル製鹽ニ要スル石灰ノ需用潮流ノ干瀆氣候ノ變動鹽田從業者ノ風習其ノ他諸種ノ事情ヨリ現在ノ十洲鹽田區域ニ編入シ置クヘキモノニ非サレハ速ニ製鹽特別賠償區域別異ニ制定シテ阿波濱製鹽業者ノ苦境ヲ救濟セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第四十四號

意見書

請願文書表第五一號

特別用規程則中追加ノ請願 青森縣青森市大字大町四百四十二番地平民藤森豐外一名呈出(紹介議員工藤卓爾君)

右請願ノ要旨ハ隸ハ北海道及樺太ノ特産物ニシテ一箇年内ノ漁獲高十五億乃至三十億尾ニ達シ魚食中營養成分ノ多量ナルコト稀ニ見ル魚類ナルニ拘ラス現今我カ國民ノ食料ニ供セラルルハ其ノ百分ノ一弱ニシテ其ノ他ハ悉ク原料ニ供セラレ從テ之カ價格ノ如キモ他ノ魚類ニ比較シ甚低價ナリ之ヲ食料問題ヨリ考フルモ特別法規ヲ設ケ鹽業ヲ保護スル必要アリ依テ既ニ制定セラレタル特別用規程則第一項第七號中ニ條ヲ追加セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第四十五號

意見書

請願文書表第五一五號

喜賣官吏更迭所設置ノ請願 廣島縣賀茂郡三津口村長上田榮造呈出(紹介議員花井車藏君外一名)

右請願ノ要旨ハ廣島縣賀茂郡賀茂支店所管管内中加茂郡三津町外九箇村ニ於ケル煙草耕作地ハ大正八年年度告示段別四十三町步鹽田段別約五十町ヲ有シ之カ生産品ハ從來年度原出張所ニ於テ取納シ來リタルモ政府ハ右町村ノ中ニ大正八年年度ニ於テ事實官吏出所ヲ一箇所新設スト仄開ス依テ之カ設置ニ伴フ生産品積納倉庫及其ノ他ノ設備ヲ村民ニ於テ負擔提供スヘキヲ以テ海陸交通上極要利便ノ地位ヲ占ムル同郡三津口村ニ該出張所ヲ設立セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第四十八號

意見書

請願文書表第五五號

質屋取締法中改正ノ請願 德島縣德島市助任西町百三十六番屋敷平賀質屋業德島縣德島市名東郡質屋組合長清水役藤外十九名呈出(紹介議員武市彰一君)

同 第一一八號

同 上 德島縣板野郡養父町財天百四十六番屋敷平民賀屋業岡村爲三郎外十八名呈出(紹介議員高島兵吉君)

右請願ノ要旨ハ質屋業ハ専ラ中流以下ノ社會ニ適切ナル金融機關

タルモ質屋取締法ハ明治二十八年ノ制定ニ係ルヲ以テ時勢ノ變遷ニ應セス斯業ノ發展ヲ阻害シ當業者ノ苦痛亦大ナルモノアリ依テ質屋業ノ圓滑ナル發達ヲ圖ル爲取締法ヲ改メテ單ニ營業法ト爲スカ又ハ少クトモ近時ノ不正質屋主ノ増加ヲ防キ及警察署ノ該業ニ對スル取締ヲ緩和スル爲本法中(一)第三條中「確認シタル後」ヲ「認メタル後」ト爲シ(二)第五條第二項「但シ質屋主ニ於テ之ノ必要トセザルトキハ交付セザルコトヲ得」ト趣旨ヲ追加シ(三)第九條中第二項「五圓以下ハ一箇月百分ノ三十圓以下ハ一箇月百分ノ二半」トアルヲ「十圓以下ハ百分ノ三、三十圓以下ハ百分ノ二半」ニ改メ(四)第十一條中「經過ノ後何時タリトモ其ノ質物ノ處分スルコトヲ得」ヲ「經過ノ時ヲ以テ所有權ヲ取得ス」ト爲シ(五)第十六條ヲ「質物監品ノ疑アルトキハ警察官ハ刑事裁判確定迄質屋ニ之カ保管ヲ命ジ置キ流質期限經過ノ後發覺者知ラレタルトキハ警察官ハ其ノ命令ヲ取消スヘシ若シ盜難者又ハ遺失主カ貸金ノ半額ヲ辨償シテ其ノ物件ヲ返還ヲ求ムル時ハ質屋ハ返還ナク之ヲ返還スヘキモノトス但シ刑法第二百四十四條ノ犯罪物件ニ付テハ此ノ限リニ在ラス」ト改メラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第五十一號

意見書

請願文書表第五〇號

仙臺地方裁判所石卷支部權限復舊ノ請願 宮城縣牡鹿郡石卷町門前橋後町六十六番地平民藤田龍造武山一郎外三百二十一名呈出(紹介議員遠藤長吉君外六名)

右請願ノ要旨ハ仙臺地方裁判所石卷支部ハ石卷、登米、氣仙沼ノ三區裁判所ヲ管轄シ牡鹿、桃生、登米、水吉ノ四郡六十餘町村ニ跨リ人口約二十三萬アリ其ノ仙臺ト距離コト七里乃至三十里餘アリ而モ交通不便ナルノミナラス近年産業取引ノ發展ニ伴ヒ訴訟事件増加シ殊ニ石卷支部ノ係案件數ハ宮城縣法院管内ニ在リテ他ノ甲號支部ニ比較シ軒輊ナク近年民事事件共ニ繁劇ヲ加フル狀況ナルニ依リ石卷支部ノ權限ヲ甲號支部ノ權限ニ復舊セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第五十四號

意見書

請願文書表第一二三號

大田三次間輕便鐵道測量及速成ノ請願 島根縣安渡郡大田町長橋崎三郎外百八十八名呈出(紹介議員恒松隆慶君外三名)

右請願ノ要旨ハ山陰山陽兩道ヲ連絡スル鐵道ノ敷設ナキハ經濟上軍事上遺憾トスル所ナリ而シテ陰陽連絡ノ目的ヲ達スヘキ線路中廣島縣三次町ヨリ郷川ニ沿ヒ同縣三郡ノ一部及島根縣邑智郡賀村郡實行村瀨原村瀨川村瀨原郡大森附近及安渡郡ヲ經テ大田町ニ到ルノ線ハ往昔ヨリ運輸交通最要線ヲ極ムルノミナラス半既設

鐵道ヲ利用シ得ルノ便アリ且大部分ハ江川ニ沿ヒ路程短ク工事容易ニシテ又廣江豫定線ノ營養線トシテ最有利ナリ依テ前記廣島三次間輕便鐵道ノ終點タル三次町ヨリ郷川ニ沿ヒ島根縣濱原村ニテ之ヲ續斷シ船瀬村ヲ經テ北進シ大田町ニ達シ山陰線鐵道石見大田驛ニ達スル線路ヲ速ニ測量シ以テ輕便鐵道ヲ建設セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第五十五號

意見書

請願文書表第四三三號

上越鐵道速成ノ請願 群馬縣群馬郡澁川町長羽鳥年太郎呈出(紹介議員武藤金吉君)

右請願ノ要旨ハ群馬縣澁川町ハ八年發展シテ上越鐵道ノ速成ヲ俟ツコト極メテ急ナルヲ以テ一日モ早ク完成ヲ期セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第五十六號

意見書

請願文書表第五八〇號

上越鐵道敷設工事急進ノ請願 群馬縣高崎商業會議所會頭小島彌平呈出(紹介議員土谷金次君)

右請願ノ要旨ハ上越鐵道敷設ハ大正七年度帝國議會ニ於テ同八年度ヨリ工事ニ著手スルコトニ確定シタルモノナリ而シテ巷説ニ依レハ該工事ハ近ク長岡方面ヨリ開始スル趣ナルモ高崎ト北越間ノ直工取引ノ便益ニ鑑ミ此ノ際高崎市ヨリモ起工シ雙方相俟テ右鐵道工事ノ速成ヲ期セラレタシト謂フニ在リ

特別報告第五十七號

意見書

請願文書表第四四〇號

池田川之江間鐵道敷設ノ請願 愛媛縣宇摩郡川之江町千五百九十一番地ノ一平民公吏一柳澤摩市外十四名呈出(紹介議員河上哲太君外三名)

右請願ノ要旨ハ愛媛縣宇摩郡ハ讃阿、土ノ三國ニ境ヲ接シ四國中央部ニ於ケル交通運輸ノ速達タル地ニシテ諸般ノ商取引頻繁ナルニ拘ラス交通機關タル鐵道ノ便ナキヲ以テ遺憾カラス該地方民ハ德島縣下池田愛媛縣下川之江間鐵道ノ敷設ヲ要望スルヤ久シ若本線完成ノ曉ハ四國全體ノ交通ヲ盛ナラシムルハ勿論中國トノ通商ニ於テ至大ノ效果ヲ實現シ延テ德島線ノ收入ヲ増加セシムヘシ依テ速ニ池田川之江間鐵道ヲ敷設セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第五十八號

意見書

請願文書表第四四三號

津山新見間鐵道敷設速成ノ請願 岡山縣吉田郡津山町長三好次男外六十名呈出(紹介議員福井三郎君)

右請願ノ要旨ハ岡山縣下津山新見間ノ鐵道敷設ハ既ニ第四十回議會ニ於テ輕便鐵道敷設セラレルコトニ決シ大正十年度ヨリ起工セラルル次第ナルモ同縣下ニ於テ輒近新ニ化學工業品ノ製出ヲ見ムトシ又農工産額增加ノ趨勢上之カ速成ハ刻下ノ急務ナレハ大正八年度ヨリ起工シテ一日モ早ク右鐵道ノ完成ヲ期セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

特別報告第六十一號

意見書

請願文書表第五八三號

都城福岡間鐵道敷設ノ請願 宮崎縣北諸縣郡高城村大字大井手二千五百六十五番地土族農新穂千秋外二百六十五名呈出(紹介議員陣平吉君外三名)

右請願ノ要旨ハ宮崎縣下都城ヨリ鹿兒島縣志布志間ノ輕便鐵道敷設ハ政府既定ノ計畫ナルモ宮崎縣南那珂郡八面積五十四方里ヲ有シ一箇年ノ生産額七百萬圓ヲ下ラサル大郡ニシテ木炭ヲ始トシテ海陸産物ニ富メル天然ノ寶庫ナルニ拘ラス右鐵道敷設計畫中ニ加ハラサルハ地方産業開發上至大ノ利益ナレハ前記志布志ニ達スル鐵路ヲ南那珂郡那珂島迄延長セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

○岩崎勳君 日程第二十以下ノ請願ヲ一括シテ、委員長報告通り採擇サレンコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 委員長報告通り御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(大岡育造君) 御異議ナクレバ總テ委員長報告通りニ決シマシタ、本日ハ是ニテ散會
午後二時二十二分散會

衆議院議事速記第十七號正誤

頁	段	行	誤	正
二三五	上	六	郡制	郡道
二三五	上	一九	縣費ヲ支辨	縣費ヲ以テ支辨
二三六	下	二三	廣大	宏大